

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790900056		
法人名	一般社団法人いがしま		
事業所名	グループホームいがしま		
所在地	名護市久志192		
自己評価作成日	平成 26年 1月27日	評価結果市町村受理日	平成26年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4790900056-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関りに力を入れ、区の行事等に積極的に参加し、利用者と共に楽しんでいるグループホームです。普段は、日課を決めず、入居者様のペースでのんびり過ごしながら、一緒にできる事(洗濯・調理補助)を行ってもらってます。その普段の生活の中で、本人らしさを見守りながら意欲低下等を予防していきます。病状の変化・認知症の進行なども見られ、その対応策等にも少し力を入れていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域密着型サービスを積極的に展開できる地域にあり、地域行事への参加や地域住民との交流が日常的に行われている。事業所の経営理念にもある、自立支援や「その人らしさ」を大切に、入居者の「買い物に出かけたい」や「自宅に帰りたい」等の声に一人ひとり個別に対応している。例えば、入居者が徒歩で近くの商店で買い物したり、自宅まで一緒に送迎等、地域住民の協力を得た見守り等も含め支援に取り組んでいる。入居者や職員は、地区出身者が多く既に、馴染みの関係が築かれ、ふるさと訪問や知人のパン屋さんへ出かけたり、知人宅への訪問等にも取り組んでいる。食事は3食事業所で調理され、職員も一緒に食している。また、おそば屋さんやぜんざい等の個別の外食支援を計画し実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成26年 4月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさや、地域との触れ合いを大事にし理念に沿った介護方針を決め、実践に努めている。尊厳や自立とは何かを少し考えていきたい。	理念を事業所内に掲示し、職員には共有を図る為、各々に配布し、唱和も毎朝実施している。入居者一人ひとりの「あなたらしく生きる」を大切に、在宅生活の延長で犬を受け入れる等で環境を整えている。また、入居者の年代に合わせてよく聞いていた歌を家族に確認し流す等、理念に沿ったサービスを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、入居者・職員共に積極的に参加し地域との交流を深めている。	地域の年間行事は地区で作成されたカレンダーから、又職員が地域出身者が多い為、情報を得ることができる。入居者は、地域のミニデイや敬老会、「くしゆくい」生年祝い等の地域行事に参加している。日頃から、入居者が利用している商店に、一人で買い物に出かけられるよう、地域住民と連携を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開き地域の方の意見を聞いて理解して頂ける様に努力している。また、事業所内に掲示物版を設け、写真や新聞などを通して来客された方に観ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、入居者様にも参加していただき、地域の方々や、入居者・家族の要望・意見などを聞き、その中でサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、区の公民館にて今年度5回開催しており、3月末に第6回を開催予定である。利用者、家族、市の担当者が参加しているが、地域の方の参加は見られない。会議では、利用状況や活動内容、ヒヤリハットや事故報告、外部評価についても報告を行っている。委員から、「活動報告も一つひとつ報告するように」と意見があり、改善している。	地域密着型サービスの意義を踏まえて、会議には、地域の方の参加は不可欠である。地域の方が参加出来るよう工夫し、入居者の日頃の様子を見ていただく為にも、会議を事業所内で開催できるよう取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、電話や直接、市役所に出向くなどして協力関係を築いている。	運営推進会議以外に、入居者の相談がある場合や空き状況の報告の為、随時役所に出向き窓口訪問している。市の担当者は研修の案内を、メールや来所にて持参してもらうこともある。事業所の空き状況等を、市のホームページへ掲載できないか、提案していく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為を正しく理解し、日々の支援で拘束を行わないケアを心がけている。また、実際に行っていない。	身体拘束をしないケアについて契約書等で謳い、研修会は行われていないが、職員はミーティング等で話し合い理解に努めている。玄関や入口は、夜間のみ施錠し、家族にはリスクについて説明している。一人で外出する入居者へ制止せず状況を確認し、見守りや一緒に出かける等身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所として、理解しているようで理解していない課題かもしれません。今後の課題として、研修の参加等を通して学ぶ機会を設けたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長・管理者のみとなっているが、後見人や地域権利擁護事業と連携を密に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所と家族間でまたは後見人と読合せを行いながら、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族から、面談・訪問・来所等を通して、提案・意見をお伺いし、利用者個々の状態を把握して介護計画に反映させている。運営推進会議などで提案のあった事は速やかに実践し運営面で繁栄させている。	入居者、家族からの意見は、運営推進会議や訪問時、面会の際に聞く機会としている。家族から、手すりの汚れや犬の放し飼いで意見があり即、話し合いを持ち、清掃や、犬をロープに繋ぎ飼うようにする等、意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの介護に関する提言・提案は申し送り時・定例ミーティングで行われている。支援に反映できない提案等もあるが、できる限り支援に反映させるようにしている。	職員からの意見は、月1回のミーティングや申し送りの際に、聞く機会を設けている。開設当初は、細かく業務分担等は決めていなかったが、職員から意見があり、日課表を作成し、役割分担を決めている。また、電子血圧計の購入や食器を瀬戸物に買い替える等職員の意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との個別面談の実施。給与水準の底上げを行ってやりがい等、向上心を持って努めているように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所内研修等を通してスキルアップを図っている。また、必要に応じて、個別に助言等を行っている。		

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員連絡会・グループホーム連絡会に参加し、お互いのサービスの質が向上できるように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人・家族から十分に話を傾聴し不安を取り除けるよう努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人・家族から十分に話を傾聴し不安を取り除けるよう努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされる、サービスを判断し個人個人に適したサービスを導入している。必要に応じて、他事業所とも連携を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくりゆっくり本人のペースを常に考え、一緒に、掃除や調理補助・洗濯物の整理等を行い、支え合う雰囲気作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いも考えながら、常に近況報告を行い、家族でできることは行ってもらい、入居者本人を共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣はもちろん、遠方の方も、できるだけ出向き、その場所にいたり、友人との面会の機会を確保している。	職員は、入居者の馴染みの場所や関係等を本人や家族、地域の方や地区出身の職員から聞く等して把握している。友人のパン屋さんや友人宅、ふるさと訪問等の送迎支援を行っている。地域行事への参加で、馴染みの場所や知人に会う機会を増やしている。地区以外の入居者は行事等への参加はこれまではない。	

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人個人の性格や特徴を把握しトラブル防止に努めている。また、孤立しているのが見受けられたら声かけし本人ができる事を行ってもらうように努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援とまではいかないが、近況報告等を行いながら関りを大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人・御家族の意向を・思いを聞き入れ、生活援助計画の作成にあたっている。必要に応じて、見直しも行っている。	「その人らしさ」を大切に考え、一人ひとりの思いをアセスメントや日頃のケアの中で把握している。「友人宅へ行きたい」「仏壇事をやりたい」等の思いに送迎や付き添いの支援を行っている。思いや意向を表出できない入居者には、表情や仕草等から汲み取り、毎月開催しているケアカンファレンスにて話し合いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な範囲で聞き取りを行い、支援に生かしている。必要に応じて、これまでのサービス機関から情報収集を行う事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時系列ケース記録等、情報を共有し、日々の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から、本人・御家族からの意見もとに介護計画を作成している。モニタリングも月に1回行い評価に努めている。	本人、家族の意向に沿った介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、状態変化時や更新時に計画の見直しをしている。職員は、申し送りやミーティング、連絡ノートを活用し情報共有を図っている。地区の行事参加や馴染みの方との交流等介護計画に反映されている。業務日誌や経過記録等の見直しを検討中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時系列ケース記録を記載し、記載の中から共有しミーティング等で話し合い、見直し・支援に生かしている。		

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り家族に協力依頼を行うが、できない場合などは、速やかに、また速やかに行えない場合は後日、調整を行うなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民との関り、区の行事等へも積極的に参加し、グループホーム以外でも入居者の方が楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診にて日々の健康管理を行い、他科受診が必要な場合は家族への依頼、または職員にて付添を行い適切な医療を受けられるように支援している。	入居者の2人は家族とかかりつけ医を受診し、残りは協力医の訪問診療に変更している。情報提供書等は入居者の状態に応じて作成し、受診後の情報等を家族等とメール等を活用して共有を図っている。また、訪問診療時は管理者とケアマネが対応し、入居者によっては専門医受診を継続支援し服薬の減に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには配置していないが、協力医と24時間体制で連携を密に取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者の入院時には主治医、ご家族と連携を取りながら退院後の介護方針計画を作成している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事例はないが、必要な時期があれば関係者で十分に話し合い支援に努める。	重度化や終末期について、医療的行為を要する場合は医療機関へ繋ぐとして家族に説明している。今後は、協力医との24Hオンコール体制等も活用した取組みを充実させたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	予測されるケースを想定し職員間で十分に勉強会・話し合いを行い、その時に備えている。		

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練も行い、緊急時の協力体制も、区長・消防団等の連携を行う事となっている。近隣住民の協力体制も得られるようにしたい。	災害対策として、消防と協力した総合訓練と自主避難訓練を昼間想定で実施している。消防の講評で、夜間想定訓練を勧められ、自主訓練でも夜間時の不安や地域住民の迅速な協力を課題としている。災害別の対応マニュアルや防災設備等は整えているが、備蓄や災害用持出し品の用意は未定となっている。	災害対策として、年2回昼夜想定訓練の実施が望まれているので、地域の協力も図り災害に向けた取組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いにならないように適宜、指導を行っているが、地域性もあるのか、つい配慮のない言葉使いが出てしまう時がある。軽はずみな言動や個人情報の取り扱いなどは職員間で気を付けるよう徹底している。	入居者一人ひとりの生活スタイルを尊重し、新聞の購読、外出支援や好みの音楽を取入れる等で支援している。在宅時に飼っていた犬を、入所時に一緒に事業所敷地内で飼い、入居者に落ち着いた生活の延長を図る等で配慮している。職員は腰を落とし、入居者と視線を合わせてコミュニケーションを図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の思いが優先しているのではないかと感じる事もあるので改善していきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	37番同様に、職員優先になっている事もあるが、できる限り話を傾聴し希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみはもちろん、外出時の身だしなみも本人と話をしながらおしゃれができるよう支援している。定期的に散髪の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好品を考慮しながら食事の提供を行っている。調理に関しては職員にて行っているが、下準備の段階で利用者にも手伝ってもらい一緒に楽しみながら行っている。	入居者は野菜のつくろいやお膳拭き等で参加している。食事は3食事業所で調理し、週3日は専属の職員を配置して職員間の負担軽減を図っている。職員も一緒に食事を摂り、各々のテーブルで入居者と職員の会話が弾み和やかな時間となっている。入居者によっては計画に外出支援(外食)を位置付け支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録をしっかりと行い、職員間で状態を把握し必要量が確保できるよう支援している。		

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、きちんと行っている。義歯のない方も、うがい等を行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力に応じた排泄支援を尊厳に配慮しながら行っている。	入居時の排泄状況を自立等改善に向けてどう取組むか職員間で検討し実践している。例えば、規則的な排泄の習慣を身に付ける事を目標に、観察や夜間帯の睡眠、失敗時の対応等の支援に取組み、排泄時の見守り支援に繋げた入居者もいる。入居者の計画で排泄時に尊厳に配慮した声かけや対応も位置づけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	課題としている。便秘気味の方が数名おられる。現在、ヨーグルト等を試みており便秘予防に繋げていけるよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人が入りたい時に入れるよう支援している。以前は拒否の強い方もいたが現在はスムーズに行えている。	入浴日は特に決めず、入居者の希望に合わせて午前、午後も関係もなく支援している。入浴を拒む場合は根気強く声かけを続けて入浴に繋げている。入浴時に同性の対応を要望する入居者には必ず同性職員を配置し、家族の希望も含め同性で対応している。浴室には浴槽も設え入居者の要望に応えたいとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での休息は個人個人の希望に添う形で行っている。判断ができない方には表情などを観察して適宜、居室での休息またはホールでのソファにて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケース記録にお薬説明書もファイルしており、それをいつでも確認し服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が持っている能力を最大限に生かせるよう役割を持っていただいている。また、個々の希望にできる限り添う形で気分転換を図っている。		

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴・散歩・買物等は毎日のように行い気分転換を図っている。また、希望時は、買い物や友人宅に出向くなどしている。	入居者は近隣の散歩や、近所の売店に買い物等出かけている。個別の計画に、外出支援を各々の目的で位置づけ、買い物や外食等で気分転換等に活かしている。花見等での遠出の機会には入居者全員で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者の方には、数千円程度であるが自己管理を行っていただいている。その中で、金銭のやり取りを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は行われてない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	模様替えを行ったり、掲示物を充実させ、その時期の行事や日常の生活を貼り出し、楽しく過ごせるよう工夫している。	玄関にはベンチがあり、入居者が外出時の準備等で利用している。共用空間には畳間、台所があり、周囲の窓からの採光、高窓等からの換気等充実した環境となっている。浴室やトイレはフローアからの視線を外し、プライバシーに配慮して設置している。区民との関わりは深さはカレンダー等の掲示物等からも図れる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で談笑するなど、各々で思い思いに過ごせていると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用していた思い入れのある、道具は持ち込んでもらっている。その中で本人が居心地が良いと感じてくれるように努めている。	居室はフローアを中心に両サイドにあり、入居者の状況に応じて配置している。居室内にはベッドとタンスを設え、持込みは入居者や家族によって特徴があり、仏壇やぬいぐるみと多岐にわたっている。入居者から夜間、フローア内の明かりが気に懸ると声があり、ドアのガラス窓を布で覆う等の対応をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人を十分に理解し、できる事は行ってもらい一部、手助けをしながら自立を促がせる生活を送っている。		